# ねがたびと

題字：降矢玄龍先生

第５３号
発行日　令和６年６月４日
発行者　根形交流センター
（根形公民館）
袖ケ浦市下新田 1277
TEL　0438-62-6161

## 令和6年4月1日から施設名が 根形交流センターとなりました！

令和６年４月１日から施設名が「根形公民館」から「根形交流センター」へ変わりましたが、その目的は市民や市民活動団体等がより活用しやすいよう利用制限の緩和を図り、社会教育に関する事業と市民協働によるまちづくりを一体的に推進するためです。
交流センターでは、これまでの公民館活動を継続しながら、地域の活動拠点として市民や地域コミュニティの交流を促進し、地域の活性化を図っていくことを目指します。
これまで以上に市民、地域の皆様に親しまれ、頼りにされる根形交流センターとなるよう努めてまいりますので、よろしくお願いします。

## 「子ども絵画教室」「陶芸教室」「成人絵画教室」がスタート

令和６年度の根形公民館の講座が次々とスタートしました。
子ども絵画教室は、５月１１日(土)、教室生１２名で開講しました。市内小学校の４～６年生を対象に、水彩画を中心とした学習を通して、仲間づくりと感性を培うことを目的に、土曜日の午前、年間９回実施します。講師は小嶋祥子先生で、豊富な経験から子供たちの豊かな感性を引き出してくれます。
陶芸教室は、５月１５日(水)、教室生１０名で開講しました。皿や小鉢、湯飲み、茶碗などの作品作りを通して、仲間づくりや技術を磨くことを目的に、水曜日の午後、年間２１回実施します。今年度の講師は水野光男先生と猪野博先生です。
成人絵画教室は、５月１８日(土)、１６名で開講しました。水彩画や油絵の基本的な知識・技術を習得することを目的に、土曜日の午前、年間１０回実施します。講師は伊藤景子先生で、多彩な技術と知識、豊富な経験から、毎回、楽しく教室生を絵画の世界に引き込んでくれます。なお、教室生の作品は、公民館まつりやサークル作品展で展示します。

こども絵画教室

陶芸教室

成人絵画教室

# 「サークル作品展」を開催しました！

令和５年度第１８回根形公民館サークル作品展を令和６年３月９日(土)～３月１７日(日)の９日間、根形公民館の多目的ホールで開催しました。陶芸（１１団体）２９４作品、絵画（８団体）１０５作品、書道（２団体）１９作品、合計２１団体から４１８の作品が会場内いっぱいに展示されました。会期中は多くの方が来観し、５４４名が訪れました。

来観者からは「毎回楽しみに見ています。絵を通して、どんな想いで描かれているのか？陶芸も形、色、絵等をじっくり見られて良かったです。これからも色んな作品を見るのを楽しみにしています。」「花まる絵画教室に子供がお世話になりました。このように作品展を開いてもらえると子供の成長が見えて、とても楽しみが増えます。空間が広くとってあることで、一つ一つの作品が目立って見えるのでとても良い展示だと感じました。」など、賞賛や励ましの言葉を多くいただきました。ありがとうございました。

# 令和６年の二十歳から根形小・中学校へ記念品を贈りました

令和６年２月２６日(月)、令和６年の二十歳を代表して長谷川光海さん、鈴木愛理さん、竹内暖さん、笹田一邑さんが根形小・中学校を訪問し、それぞれ学校代表の子ども達に、バレーボールを贈呈しました。

令和６年の二十歳を祝う会で、新成人代表実行委員は、現在夢の実現に向け、勉学に励んでいます。今後のご活躍を大いに期待しています。

## 新しい社会教育推進員・管理人をご紹介します

４月から社会教育推進員３名、管理人１名が新たになりました。よろしくお願いします。

社会教育推進員
又野健二さん

三ツ作在住です。
成人絵画教室、
ニコニコ教室を
担当します。

社会教育推進員
鎌田正義さん

のぞみ野在住です。
地域再発見講座、
地域人材育成講座を
担当します。

社会教育推進員
西尾滋子さん

のぞみ野在住です。
地域再発見講座、
ニコニコ教室、家庭教
育学級を担当します。

管理人
寺脇幸平さん

のぞみ野在住です。
趣味はテニスです。
犬が好きで、現在
３匹飼っています。

## 根っ子の会総会・研修会を開催しました

青少年育成袖ケ浦市根形地区住民会議、いわゆる「根っ子の会」の総会及び研修会が、５月１９日(日)根形交流センター視聴覚室で開催されました。

根っ子の会は、学校・家庭・地域の連携を深めて地域の子どもたちの健全育成を目的として活動しています。具体的な年間の活動は、夏の「根形わくドキ体験」、夏・冬の愛のパトロール、青少年健全育成標語看板設置など、根形の子どもたちの健やかな成長を支える活動をしています。今年度は保坂勝美会長、他９２名のメンバーが登録されています。

総会後の研修会では、根形駐在所の倉持警部補から県内や市内、根形地区で起こっている事故や窃盗、特殊詐欺等の情報提供や被害対策等について、話をいただきました。

## 今年もやります！ ねがたオープンキャンパス （ねこまろ）

今年度の開催予定日をお知らせします。「通常版」は８月１日(木)、２日(金)の２日間、「特別版」は８月３日(土)、１７日(土)の２日間です。

大学生や社会人を中心とした若者のグループ（N.O.C）のメンバーが、根形地区の子どもたちに楽しんでもらいたいと色々なアイデアを出し合い、現在企画中です。お楽しみに！

昨年度のねこまろ

## 根形公民館図書室を、ご利用ください！

水・金・日は、
脇屋さんがお待
ちしています！

根形公民館図書室は、原則、水曜日・金曜日・日曜日の３日間を１人の司書（脇屋さん）が管理しています。司書のいない火曜日・木曜日・土曜日は公民館職員や管理人が、貸出業務や返却業務、予約・リクエストカードの受取を代行していますので、公民館窓口にお声掛けください。袖ケ浦市では、０歳の赤ちゃんでも利用券を作ることができます。また今年度は、”ふれあい読書コーナー”で絵本の読み聞かせをする『すきすき絵本タイム』の開催日が増えました。ぜひお越しください。

新シリーズ　スタート！

# 袖ケ浦生き物探訪　その①　袖ケ浦の地形と生き物

郷土博物館　水流（つる）　拓馬

緑豊かな袖ケ浦では、私たちのすぐ近くにたくさんの生き物が暮らしています。今回は、袖ケ浦の地形と生き物の分布について見ていきましょう。

地形は生き物の住み家や種類を決める大切な要素です。袖ケ浦の「本来の」地形は、大きく分けて次の3つに分類できます。

①小櫃川（おびつがわ）の北側などを中心に広がる低地
②市の南北に広がる台地
③小櫃川河口から広がる広大な干潟（ひがた）

「本来の」と前置きしたのは、現在は台地の一部が開発によって削られ、干潟は埋め立てによりなくなっているからです。

①の低地は主に水田として利用されていて、水生昆虫やスジエビなどの甲殻類（こうかくるい）、それらを餌（えさ）にするアマガエルなどの両生類（りょうせいるい）などが生息しています。多くの場所で水田の区画整理や水路の護岸（ごがん）化が進んでいますが、一部には護岸されていない昔ながらの用水路や、台地との狭間に作られた谷津田（やつだ）が残されています。こうした環境は水の生き物にとって重要な住み家になっており、緩（ゆる）やかな流れときれいな水を好むドブガイの仲間や、台地と低地の境からにじむ湧き水に産卵するトウキョウサンショウウオなどが生息しています。

②の台地は、今から 6.5 万年前から 1 万年ほど前に形作られた古い地形です。こんもりと繁（しげ）る緑豊かな森が目立ちますが、これはスダジイやシラカシといったドングリがなる常緑樹（じょうりょくじゅ）（1年中葉が緑色の木）を中心とした森で、昆虫、爬虫類（はちゅうるい）、鳥類やほ乳類など数多くの生き物が生息しています。また、森の地下にはキノコが菌糸を張り巡らしており、落ち葉や倒木を分解して、栄養のたっぷりの土壌（どじょう）を作り出しています。また、森をねぐらにして水田で狩りをするサギの仲間のように、①と②を行き来している生き物も多く、両者をまとめて1つの環境ととらえることもできます。

森の植物には、キンラン(写真)のようなキノコがいないと生きられない種類もいます

最後の③は、袖ケ浦ではなくなってしまいましたが、一部は木更津市に残されており、小櫃川河口干潟（盤洲（ばんず）干潟）と呼ばれています。埋立て前には現在の JR 内房線の線路の海側一帯に干潟が広がっており、二枚貝や海鳥などの生き物にとっても、漁師にとっても大変に豊かな環境でした。ちなみにさかのぼること約 7,000 年前は、氷河期からの気温上昇によって海面が上がり、海岸線が袖ケ浦公園の鏡（きょう）ケ峰（みね）あたりまで入り込んでいたようです。今は一面田んぼの風景が見える場所から、遠い昔には海が見えていたということには、何だかロマンが感じられますよね。